

Thredbo18への参加

2024年9月30日～10月3日

■会議の概要

2024年9月30日～10月3日に、第18回陸上旅客交通における競争と所有形態の国際会議（Thredbo18）が南アフリカのケープタウンで開催され、当研究所から覃研究員が参加しました。

Thredboは、1989年に始まり、2年ごとに開催されている国際学会です。世界中の交通研究者、実務者、政策立案者が一堂に会し、意見を交換する重要なイベントとなっています。前回は2022年にシドニーで開催されました。この会議では、複数のワークショップが行われ、ラウンドテーブル形式で発表と議論が進められます。今回、発表者（88名）と実務者を含め、100名以上が参加しました。

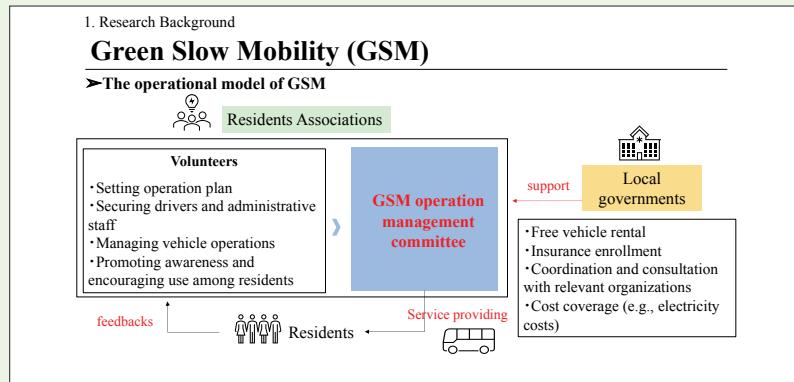
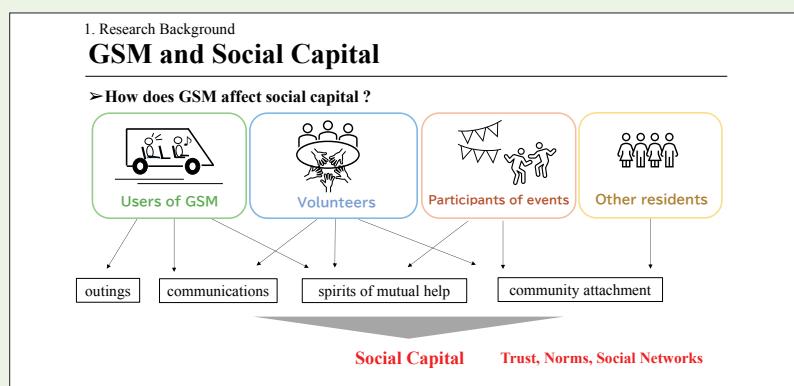
今回のThredbo18は下記の7つのワークショップに分けて議論を行いました。

- ①21世紀における陸上旅客輸送の競争と所有権のマッピング
- ②陸上旅客輸送における競争と所有権の新たな実践
- ③インフラ、サービスと都市開発
- ④持続可能な公共交通の実現における技術革新の影響
- ⑤新しいサービスモデル：新たなモビリティサービスの管理
- ⑥都市交通におけるマイクロモビリティの動き
- ⑦利用者と住民のニーズを満たす持続可能な交通システム

覃研究員はワークショップ7で、「小型公共交通サービスとソーシャルキャピタルの醸成：日本のグリスロの事例研究」と題して研究発表をしました。当研究所で行った個別研究調査を踏まえ、千葉市桜木地域のグリスロの実例に対する考察を発表しました。各国の研究者と日本の公共交通の現状などについて活発な討論、意見交換を行いました。（なお、当該個別研究調査の中間成果の概要については、2024年9月の当研究所第55回研究報告会にて報告済み。本誌P.24～を参照）



発表の様子



覃研究員が発表した資料の一部



意見交換の様子

また、ワークショップ3で、柴山多佳児氏（ウィーン工科大学交通研究所 上席研究員・当研究所 客員研究員）が「Sustainable Mobility Guaranteeの指標に関する考察」と題して研究発表をしました。

■現地の交通事情

南アフリカにおいては、鉄道や路線バスが運行されていますが、自動車社会の伝統が強く、公共交通を利用するより、自家用車を利用する傾向となっています。公共交通については、利便性と安全性が低いため、「みんなで共有する社会サービス」より「貧しい人が利用するもの」という認識が根強くあります。また、都市計画もクルマ志向であるため道路交通安全も問題視されています。さらに、社会文化や法的制度などの影響で、公共交通におけるセクシャルハラスメントも多発するため、女性の公共交通利用が少ない現状です。

2010年ワールドカップの開催に合わせて、ケープタウンではBRT（MyCiti）の運行が開始し、カードベースのシステムとなり、安全性が一定程度確保できていますが、利用層が限られているため、貧困層の利用が困難な状況です。他には、経済的に恵まれた市民と観光客において、Uberの利用が多い状況です。一般市民、特に貧困層にとって普遍的な移動手段としては、ミニバスという小型乗り合い交通サービスがあります。



渋滞の様子



BRTの駅で並ぶ乗客



中心市街地におけるミニバス



BRT駅の様子